

教育センター

センター長 福島 統

教授：福島 統 医学教育学
教授：尾上 尚志 医学教育学
教授：中村真理子 医学教育学
准教授：石橋 由朗 医学教育学
講師：岡崎 史子 医学教育学
講師：鈴木 英明 医学教育学

教育・研究概要

1999年4月に教学委員長を室長に医学教育研究室が学事部学務課内に設置され、2002年4月には初年次教育の拡充のために、国領校に医学教育研究室国領分室が設置された。2005年10月に教育センターが設置され、その中に医学教育研究室、看護教育研究室、卒後教育支援室、教育開発室が置かれ、2006年4月には教育センター事務室が設置され、教育センターとして本格的な活動が開始された。福島 統が2007年4月に教育センター長に就任し、2010年4月、2013年4月、2016年4月、2019年4月に再任された。教育センターは、2010年4月にC棟7階に移動し、シミュレーション教育施設およびe-Learning施設の管理運営も行っている。2015年8月1日に東京慈恵会医科大学教育センター規定が改定され、教育センター内に医師キャリアサポート部門（部門長：福島 統）、看護キャリアサポート部門（部門長：高橋則子）、シミュレーション教育部門（部門長：尾上尚志）、地域医療支援部門（部門長：松島雅人）、教育IR部門（部門長：中村真理子）、アドミッション部門（部門長：中村真理子）が活動している。

I. 学内卒前教育・大学院教育・看護キャリア支援

学内教育活動として、福島教授はコース医学総論Ⅲ～Ⅵのコース責任者、「福祉体験実習」、「重症心身障害児療育体験実習」、「地域子育て体験実習」、「高齢者医療体験実習」、「プライマリケア・学外選択臨床実習Ⅰ～Ⅵ」、「医学研究Ⅰ～Ⅵ」のユニット責任者、中村教授は医学総論Ⅰ～Ⅱのコース責任者、「医療総論演習」、「Early clinical exposureⅡ」、「医学総論Ⅱ演習」、「医学総論Ⅲ演習」のユニット責任者、尾上教授は「基本的臨床技能実習」、「臨床医学演習」

（テュートリアル）のユニット責任者、岡崎講師は「在宅ケア実習」、「病院業務実習」、「医学総論Ⅴ演習」、「家庭医実習」のユニット責任者、鈴木講師は「医学総論Ⅰ演習」のユニット責任者を務めた。大学院教育として、福島教授、尾上教授、中村教授、石橋准教授、岡崎講師は共通カリキュラムの医学教育学を担当した。

学内委員会活動として、中村教授は「教育プログラム評価委員会」、「教育評価検討委員会」の委員長、尾上教授は「4年次OSCE委員会」、「臨床医学Ⅱ総合試験委員会」、「医学総括試験委員会」の委員長、石橋准教授は「試験委員会」、「共用試験問題検討委員会」、「Post CC-OSCE委員会」の委員長を務めた。

看護キャリアサポートセンターは、高橋則子部門長を責任者として、学内看護職を対象とした1. エデュケーションナース研修、2. 基礎教育と臨床の交流研修、3. 慈恵医大ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム研修などの看護学教育プログラムを実施した。本年度より、学内を含む地域の看護職を対象とした「認定看護管理者教育課程ファーストレベル」（定員30名）を開始した。挟間主事は、看護学科において「災害看護論」、「救急看護論」、大学院看護学専攻博士前期課程へは「コンサルテーション論」、「クリティカルケア看護学演習Ⅳ」を担当した。

II. 教育IR

教育IR部門は、中村教授を部門長として、入試データ、学生の卒前業績データ、卒業生アンケートデータなどの解析を行った。

III. シミュレーション教育施設

シミュレーション教育部門は、尾上教授を部門長として、シミュレーションセンターの備品整備、教育環境整備などを行った。

IV. 卒前FD・SD

学内のFDや講習会にファシリテータあるいはチーフタスクフォースとして、石橋准教授は診療参加型臨床実習指導医養成FD、臨床研修指導医講習

会、屋根瓦方式教育スキルアップのための後期研修医 FD、4 年次 OSCE 評価者トレーニング、Post-CC OSCE 評価者トレーニング、臨床実習前医療面接実習教員養成 FD に参加した。岡崎講師は臨床実習前医療面接実習教員養成 FD、臨床研修指導医講習会、屋根瓦方式教育スキルアップのための後期研修医 FD、Post-CC OSCE 評価者トレーニング、効率的な学生指導法－臨床実習における EBM の指導－に参加した。

V. 学内卒後臨床教育

附属病院の内視鏡外科手術に対する教育活動として、石橋准教授は鏡視下手術学内技術認定制度の責任者を務めた。岡崎講師は臨床研修医の SEA セッションのタスクを務めた。

VI. 附属病院での看護系 SD

挟間主事は、附属 4 病院に対し「看護師静脈注射 IV レベル 4」の基準および教育プログラムの作成、「慈恵 ICLS」、「慈恵 BLS」、「慈恵 PBLs」、「慈恵患者安全緊急気道管理コース」、「慈恵 RRS」にインストラクター・ファシリテーターとして参加した。挟間主事は、附属病院看護部のシミュレーション教育「看護師静脈注射研修レベル 3」ナースの実技演習、手術部・放射線部の「レベル 4 ナース」の実技演習、4 部署の「急変対応チームシミュレーション勉強会」の企画・運営に参画した。柏病院看護部の匠ナース（院内認定看護師）への「コンサルテーション論」を担当した。

VII. 学外での FD・SD 活動、委員会活動など

医学教育振興財団主催「医学教育指導者フォーラム」と文部科学省主催「医学・歯学教育指導者ワークショップ」を支援した。フォーラムでは、「社会に開かれた医学教育」を主題とし、英国での患者・市民が参加する医学教育 (Patient and public involvement in undergraduate medical education) の実践の紹介と、医師養成課程にどのように社会のニーズを取り入れ、英国の医学教育がどのように変化してきたのかを話題に取り上げた。日本からは、市民が医学教育関係や医療行政に参加している活動、患者の声を医学生に届ける活動、そして本学が行っている患者・市民参加の授業実践の紹介を行った。中村教授はフォーラムの講師として話題提供と総合討論に参加した。中村教授は医学教育振興財団審査委員を務めた。

文部科学省主催のワークショップでは、「卒前・

卒後の一貫した医師・歯科医師養成について」、医学教育モデル・コア・カリキュラム (2016 年) と臨床研修到達目標 (2020 年案) の 2 つのアウトカムの関係を、診療参加型臨床実習 I (卒後臨床研修を見据えた教育の方略)、診療参加型臨床実習 II (地域包括ケアシステムの実践的教育)、診療参加型臨床実習 III (指導者の育成・確保)、卒後臨床研修を見据えた卒前教育における臨床能力評価の在り方の 4 つの視点から討議を行った。福島教授は、フォーラムとワークショップの企画に参加した。

日本医学教育評価機構 (JACME) の他医学部外部評価の活動で、福島教授は企画・運営部会長として機構の運営に関わるとともに、旭川医科大学、佐賀大学医学部での評価員主査を、中村教授は久留米大学医学部での評価員主査を務め、評価者養成ワークショップ、自己点検評価書き方講習会の講師を務めた。また中村教授は評価委員会、調査・解析委員会、研修委員会の各委員としての活動を行なった。

医療系大学間共用試験機構の活動では、中村教授は医学系 CBT 実施小委員会病態解析 EMI 問題作成専門部会委員、CBT 機構派遣監督者として順天堂大学医学部、熊本大学医学部に派遣された。石橋准教授は医学系 CBT 実施小委員会症候 EMI 問題作成専門部会委員、CBT モニターとして東京医科大学、東邦大学に派遣された。岡崎講師は診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験 (Post-CC OSCE) 委員会医学系運営委員会の委員、同実施管理小委員会委員、同認定評価者養成・管理小委員会委員、同学修評価項目・課題管理小委員会委員長、同模擬患者養成小委員会委員を務め、Post-CC OSCE の視察委員として福井大学、富山大学、宮崎大学、岩手医科大学、大阪大学へ派遣された。また、標準模擬患者養成担当者講習会の講師 (2 回)、臨床実習後 OSCE 認定評価者講習会 (東京、金沢、愛知など計 5 回) での講師を務めた。

卒後臨床研修評価機構の活動では、石橋准教授がサーベイヤーとして関東労災病院の訪問調査に派遣された。鈴木講師は日本小児連絡協議会合同委員会「小児と小児歯科の保健検討委員会」委員を務めた。日本医学教育学会の活動では、福島教授は副理事長を、中村教授は学会誌編集委員、卒前教育委員を務めた。また、中村教授は筑波大学医学教育 IR センター外部委員を務めた。高橋部門長は、日本看護協会専門看護師制度委員および昭和大学看護キャリア開発・研究センター教育委員を務めた。

Ⅶ. 文部科学省、厚生労働省、東京都などでの活動

挾間主事は、厚生労働省からの DMAT 要請により、客船から病院への COVID-19 患者搬送を行い、地域貢献として、JANP センターの要請で市大学プラットフォーム WG 協賛「調布市商工まつり救護室」に看護師として派遣された。

福島教授は、文部科学省関係では、令和元年度「職業実践専門課程による先進的取組の推進 職業実践専門課程における第三者評価の実用化に関する調査研究」に第三者評価の仕組み構築委員、柔道整復師養成分野第三者機関等検討部会の委員、および看護師養成分野の評価基準等策定部会会長として参加し、令和元年度文部科学省受託事業「職業実践専門課程における第三者評価の実用化に関する調査研究事業成果報告書」及び「職業実践専門課程第三者評価マニュアル（改訂版）」の作成にかかわった。厚生労働省関係では、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師及び柔道整復師等の広告に関する検討会会長および医師国家試験事業外 11 試験事業一式に係る総合評価委員会委員、東京都関係では、東京都地域医療対策協議会委員、東京都地域医療支援センター運営委員会委員および東京都外来医療計画・医師確保計画策定プロジェクトチーム委員を務めた。

Ⅷ. 学外での医学教育学・医療者教育論の大学院講義

1. 東邦大学医学研究科博士課程医学専攻
2. 日本体育大学保健医療学研究科保健医療学専攻

Ⅸ. 学外での FD・SD 活動

1. 防衛医科大学校
2. 山梨大学医学部附属病院
3. IMS 医療安全管理者養成講習会
4. 医療研修推進財団理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員講習会
5. 昭和大学
6. 久留米大学医学部
7. 産業医科大学
8. 帝京大学医学部
9. 兵庫医科大学
10. 兵庫医科大学病院認定看護師教育課程
11. 厚生労働大臣指定柔道整復師専科教員認定講習会
12. 岐阜大学医学部
13. 文教大学保健技術学部

14. 関西医科大学
15. 山梨大学医学部教授会
16. 高知大学医学部
17. 大分大学医学部教授会
18. 昭和大学看護キャリア開発・研究センター認定看護管理者教育課程
19. 山形県看護協会認定看護管理者教育課程
20. 華学園栄養専門学校管理栄養士科
21. 東京急行電鉄株式会社東急病院「救急看護研修」
22. 港区医師会歯科医師会薬剤師会「災害トリアージ訓練講習会」
23. 社会医学技術学院（アクティブラーニングのための FD、臨床実習指導医講習会）
24. 日本リハビリテーション専門学校
25. 福井大学

「点検・評価」

1. 教育センターでは、1) 卒前医学教育支援、2) 卒後生涯学習支援、3) 看護キャリアサポート業務、4) シミュレーション教育施設運営管理、5) e-Learning の設備管理と運営、6) 教育 IR 活動、そして 7) 高大接続に関する入学試験改革を中心に活動を行っている。研究もこの活動に沿った内容で行っている。高等教育の政策変化に応じた医学教育に対応するため、教育センターの役割が拡大しつつある。教育 IR 部門は特に、今後、教育の質保証の観点からがその活動を強化していかなければならない。学修成果のデータ収集や、アルムナイ調査など本学の社会的責任の指標となるデータ収集が求められているが、データ収集能力の強化を図っていかなければならない。

2. 教育センターの活動は学内のものと学外のものに区分される。学内の活動は教学委員会及びその下部組織の委員会の支援活動で、教学委員会の依頼の下で行われている。今年度は新たな教学委員会体制での組織づくりと活動開始が主なものであった。一方、学外の活動は広がってきており、文部科学省、厚生労働省、東京都など行政に関連するものと、全国医学部長病院長会議、国立病院長会議、医学教育振興財団、日本医学教育評価機構（JACME）、日本医学教育学会、医療系大学間共用試験実施評価機構などの学協会関連のものがある。文部科学省受託事業では看護専門学校のための外部評価基準の作成も行い、医学だけでなく看護学関係への活動が広がっていることは評価できる。

研究業績

Ⅲ. 学会発表

- 1) 福島 統. (シンポジウム 4-2-4 : グローバル化時代の卒前-卒後-生涯医学教育) 医学教育の質保証はなぜ必要か? 第30回日本医学会総会 2019 中部, 名古屋, 4月.
- 2) 福島 統. (特別講演) 医療者教育における職業教育の視点-卒業後に職業を通じて社会で生きるための教育-. 第4回日本薬学教育学会大会. 豊中, 8月.
- 3) Yoshida E, Okazaki F, Fukushima O, Matsushima M. Cross sectional survey of education on LGBT contents in medical school in Japan. 47th North American Primary Care Research Group (NAPCRG) Annual Meeting, Toronto, Nov.
- 4) 中村真理子. (総合討論: 社会に開かれた医学教育) 市民・患者さんが参加する医学教育. 第31回医学教育指導者フォーラム. 東京, 7月.
- 5) 恒川幸司, 中村真理子, 岡田聡志, 浅田義和, 菰田孝幸, 椎橋実智男. (プレコングレスワークショップ4) 第1回医療系 IR 友の会ミーティング. 第51回日本医学教育学会大会. 京都, 7月.
- 6) 中村真理子. (シンポジウム: 医療者像のパラダイム変化の中でアウトカム基盤型教育の質保証をどう進めるのか) アウトカム基盤型教育の質保証と IR. 第75回医学教育セミナーとワークショップ. 岐阜, 1月.
- 7) 吉田絵里子, 岡崎史子, 松島雅人. (口頭) 日本の医学生に対する LGBT 当事者による授業の成果. 第10回プライマリ・ケア連合学会学術大会. 京都, 5月.
- 8) 岡崎史子. (シンポジウム 14: シムリンピックから post CC OSCE へ-特に大学独自課題について-) Post-CC OSCE 大学独自課題作成支援ワークショップの経験から. 第51回医学教育学会総会. 京都, 7月.
- 9) 岡崎史子. (シンポジウム 11: 生涯にわたる医師の学習履歴をつなぐには?) 慈恵医大における臨床実習の学習履歴について. 第51回医学教育学会総会. 京都, 7月.
- 4) 福島 統, 椎橋実智男, 山岡章浩. 座談会「医学教育における職業教育の視点」. 医教育 2019; 50(4): 315-28.
- 5) 中村真理子. 医学教育分野別評価と IR. JACME Newsletter 2020; 5: 1-4.

V. その他

- 1) 福島 統. 【学会誌 50 巻発行記念】 4. 歴代編集委員長の言葉 編集委員会の移り変わり. 医教育 2019; 50(2): 143-4.
- 2) 福島 統. 【学会誌 50 巻発行記念】 6. 現在の学会誌編集委員からのメッセージ 2000 年に編集委員になって. 医教育 2019; 50(2): 150.
- 3) 奈良信雄, 寺野 彰, 友田幸一, 福島 統, 服部雄幸, 別所正美, 小栗典明. 座談会「日本医学教育評価機構 (JACME) の現状と課題について」. 医学振興 2019; 88: 8-35.